

通し番号	4431
------	------

分類番号	21-24-16-01
------	-------------

(成果情報名) 三浦半島の夏まき4月どり栽培における加工・業務用寒玉系キャベツの有望品種の特性
[要約]三浦半島において、加工・業務向けで端境期となる4～5月どりの寒玉系キャベツは、在圃性の高い晩抽性品種を夏まきすれば、4月上旬～下旬まで連続的に生産・出荷できる。この作型に適し、加工適性が高く、多収性の品種として、‘夢ごろも (TCA-400)’、‘YR冬景色’、‘冬のぼり’が有望である。
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター・三浦半島地区事務所研究課 連絡先 046-888-3385

#### [背景・ねらい]

近年、食の外部化等で需要が伸びている加工・業務向けキャベツには、葉質や結球が硬く、加工歩留まりのよい寒玉系が求められている。しかしながら、寒玉系キャベツは、抽苔や不結球等の問題から4～5月の生産が難しいため、愛知産の冬どり寒玉系貯蔵キャベツや中国産の輸入寒玉系キャベツが流通している。そこで、国産キャベツに対するニーズの高まりを背景に新たに育成された品種の中から夏まきで抽苔や不結球が回避でき、在圃性や収量性などの面から、三浦半島における4月どり加工・業務用キャベツの有望な品種及び作型を明らかにする。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 3月中旬に2Lサイズに達し、抽苔や裂球がなく、4月末まで収穫可能な寒玉系品種として‘夢ごろも (TCA-400)’、‘YR冬景色’、‘冬のぼり’が有望である (表1、2、一部データ省略)。
- 2 8月下旬播種で3月から収穫可能で在圃性の高い品種、‘夢ごろも (TCA-400)’、‘YR冬景色’、‘冬のぼり’、を用いることにより、4月上旬～下旬にかけて連続的に収穫することが可能になる (表2、一部データ省略)。
- 3 4月中旬以降、芯及び花茎が伸長し始めるほか、品種によっては裂球率が高まる。また5月以降は株腐病等による腐敗株率が高まり、可販化率が著しく低下する (表2、一部データ省略)。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 遅まきすると抽苔や不結球になりやすいので、8月下旬までに播種するとともに、適正な肥培管理により結球緊度を高めることで抽苔を抑制する。
- 2 ‘冬のぼり’は厳寒期の急激な気温低下時に外葉の一部が壊死・脱落し、その後の球肥大や芯長に影響するため、栽培地が限られる。
- 3 圃場占有期間が約8ヶ月と長くなることを前提に導入する。
- 4 L～2Lサイズを求める加工業者等に対しては、密植栽培によりL～2L比率を高める。
- 5 ‘T-520’の種子は市販されない。

[具体的データ]

表1 4月収穫時における各品種の特性及び収量性 (H18-H20)

年度	品種	株張 (cm)	結球重 (g)	球形指数 <sup>z</sup>	結球緊度 <sup>y</sup> (g/cm <sup>3</sup> )	芯重/結球重 (%)	抽苔程度 <sup>x</sup>	裂球発生率 <sup>w</sup> (%)	収量 <sup>v</sup> (t/10a)
H20	T-520	52	2,386	0.65	0.71	2.5	1.8	0	14.2
	冬のぼり	45	1,970	0.76	0.67	2.7	2.3	0	11.6
	TCA-400	52	2,555	0.68	0.69	2.7	2.1	0	14.9
H19	T-520	53	2,580	0.68	0.67	2.1	1.5	0	11.2
	冬のぼり	42	2,055	0.82	0.62	3.1	3.0	0	12.2
	TCA-400	51	2,752	0.69	0.67	2.3	2.0	0	16.3
	冬くぐり	42	2,682	0.86	0.69	2.1	1.3	25	14.2
	YR冬景色	52	2,687	0.68	0.69	1.9	2.0	0	16.0
H18	T-520	59	2,368	0.71	0.72	1.9	0.3	—	14.1
	冬のぼり	50	2,155	0.83	0.62	2.6	0.3	—	12.8
	冬くぐり	53	2,128	0.74	0.74	2.3	0.3	—	12.6
	エムスリー	43	1,427	0.76	0.79	3.0	0.8	—	8.5
	豊光	50	2,103	0.71	0.76	3.1	1.8	—	12.5

平成18～20年の各4月16日調査。平成18年は拾いどり調査のため4月調査全体の平均値。播種：平成18～20年の各8月22日、栽植密度：51×33cm (5,941株/10a)。<sup>z</sup>球形指数=球高/球径。<sup>y</sup>結球緊度=結球重/(1/6×π×球径×球径×球高)。<sup>x</sup>縦断面の目視により、0：頂花蕾が確認できない、1：頂花蕾確認、2：頂花蕾伸長初期(脇芽確認)、3：頂花蕾伸長(脇芽の肥大)、4：頂花蕾伸長甚大(球内抽苔)の5段階で評価(抽苔程度3に達するまでは出荷可能と想定)。<sup>w</sup>裂球発生率には裂皮を含む。<sup>v</sup>収量(t/10a)=結球重×栽植株数×(100-欠株率)。平成19年及び平成18年は欠株なしとして算出。

表2 3～5月収穫における結球重及び品質の変化(H20)

品種	項目	3月		4月		5月	
		18日	2日	16日	30日	15日	29日
T-520	結球重(g)	1,548	1,606	2,386	2,529	2,543	2,248
	裂球発生率(%)	0	0	0	0	0	0
	抽苔程度	0.6	1.0	1.8	2.0	2.0	2.1
	腐敗株率(%)	0	0	0	0	42	58
	芯重/結球重(%)	2.7	2.6	2.5	2.8	3.1	3.1
冬のぼり	結球重(g)	1,482	1,803	1,970	2,144	1,987	1,978
	裂球発生率(%)	0	0	0	0	0	0
	抽苔程度	1.0	1.5	2.3	2.6	2.3	2.1
	腐敗株率(%)	0	8	4	0	25	58
	芯重/結球重(%)	3.0	2.9	2.7	2.9	3.2	3.2
TCA-400	結球重(g)	1,829	2,187	2,555	2,525	2,594	2,436
	裂球発生率(%)	0	0	0	8.3	0	0
	抽苔程度	0	1.4	2.1	2.8	2.3	2.8
	腐敗株率(%)	0	0	0	8	33	75
	芯重/結球重(%)	3.1	3.0	2.7	4.1	3.5	3.2

脚注は、表1参照。

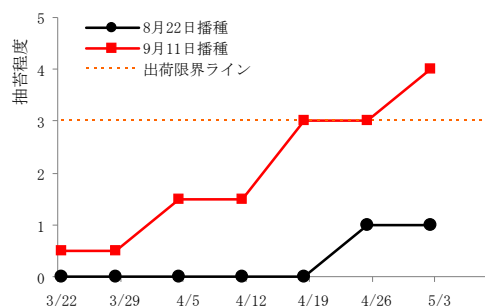


図1 播種日と抽苔の関係(H18、品種：T-520)

[資料名]農水省加工プロジェクト試験研究成績書(平成18～21年度)

青果物カット事業協議会研究報告書(平成18、19年度)

[研究課題名]園芸作物等の栽培技術に関する研究開発

ア 春キャベツにおける業務用高品質品種を用いた定量・定時・定質生産技術の開発

[研究期間]平成18～22年度

[研究者担当名]高田敦之・太田和宏・北浦健生・北宜裕